

# 2010 道東ブロックトレセン 報告書(U-14)

期 日 平成22年8月7・8日(土・日)

会 場 帯広の森サッカー場

## 1. 参加選手(計11名)

山崎聡太(幣舞中)、干場輝創、八重樫恭介、宮原勇哉、石橋成悦(以上、SC釧路)  
黒田賢太(鳥取西中)、一ノ戸隆樹(R.シュペルブ釧路)、小泉尚也(教育大附属中)  
木村希澄(景雲中)、川淵祥太(春採中)、水野圭佑(青陵中)  
※北澤智矢(鳥取西中)は怪我のため辞退

## 2. はじめに

7月27日の釧根BTCを経て選考された11名(怪我のため1名が辞退)が参加した。道東BTCでは、十勝、網走、釧根の4地区の選手が2グループに分かれ、1時間半のトレーニングと8人制のゲームを行った。また、2日目は地区対抗の11人制ゲームが行われた。

### グループ別トレーニング・ゲーム

グループ別のトレーニングは1時間半行われた。テーマは「守備」。釧路の選手たちは、普段のトレセンで何度も行った守備のトレーニングやトレセンマッチの成果もあり、攻撃から守備に移った直後にボールを奪いにいく意識が強かったように思える。しかし、グループとして味方や相手の状況を良く観て判断して守備をする選手はほとんどいなかった。グループでの守備は今後も課題となるだろう。

攻撃ではやはり「観る」「観ておく」ことに課題を感じた。トレーニングにおいても、ゲームにおいても、昨年よりも観ることを意識できるようになってきた選手もいるが、「止めてから考える」「パスを受けてから考える」という悪い習慣は改善できるように、今後もトレーニングを継続していかなければならない。

プレー以外の部分について。十勝の選手は、非常に積極的であった。集合時に一番乗りで駆けつける。返事、挨拶、人の目を見て話を聞くなど他地区の選手に比べてしっかりしていた。

### 地区別11人制ゲーム(30分×4)

どの地区よりも「サッカーの原則」に沿ってゲームをしようとしていた。昨年からの道東トレセンマッチやトレーニングで徹底してきた成果と言っても良いだろう。

On the ball では、積極的に縦パスを通すことを狙った結果のパスミスも多かったが、攻撃の優先順位を意識してプレーしようとする選手が多かった。しかし、多くの選択肢を持って判断したプレーであったかという点では課題が残る。

Off the ball では、ボールの移動中のポジショニング(裏を狙う、幅をとる、DFの受け皿)や顔を出すタイミングは春先に比べて確実に良くなっている。また、ボール保持者に対してパスコースを多く作るための関わりも増えてきている。

結果、ボールを保持しゲームを支配する時間帯が多かった。課題は、以下の通りである。



## 《判断が悪い・遅い＝テクニック・フィジカルに頼った場しのぎのプレーが多い》

昨年からの課題で、解決しきれていない部分である。他地区の選手と比較しても、テクニックやフィジカルには遜色はない。しかし、そのテクニックやフィジカルに頼りすぎて、判断（意図）のない1stタッチやドリブルをすることがしばしば見られる。結果、相手に囲まれ奪われたり、無謀なパスやドリブルで失ってしまったりする。

しかし、現状ではテクニックやフィジカルで強引にくぐり抜けたり、ドリブルで持ち続けてからパスをしたりと、何とかなってしまっている。結果的にナイスプレーともとれそうなプレーでも、強いプレスがかかってきたときにはほぼ通用しないプレーとなってしまう。「観る」「観ておく」ことの質を高めていくことが絶対必要条件。「いつ」「どこで」「何を意図して」テクニックを発揮するのかを迫及することが求められる。

## 《パス&コントロールの質＝強さ、正確性、置き所》

攻撃ではパススピードや数センチ単位の正確性までの意識が低く、チャンスを逃すことが多く見られた。

また失点は、1stタッチの置き所が悪く→止まったままのコントロールで→視野が狭くなり→パスミスが起こり→失点。という場面が目立った。釧根の選手たちは、普段あまり良くないピッチコンディションでトレーニングをしなければならぬハンディもあるが、パスの質とともにコントロールの質を高めていくトレーニングは継続していく必要がある。

## 《組織的な守備＝習慣化、コミュニケーション》

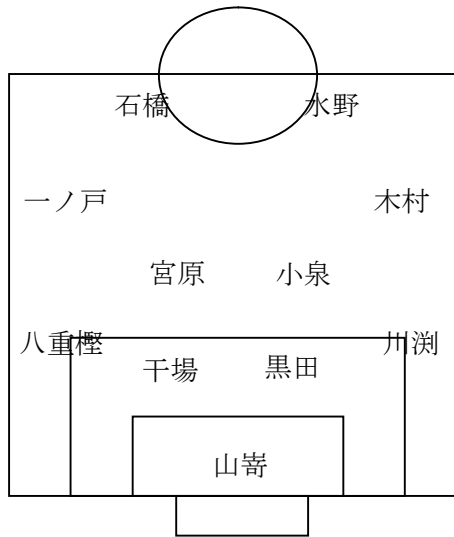
守備がゆるいと攻撃のトレーニングが高まらないという悪循環が起こる。ゲームでも、判断なくテクニックやフィジカルに頼って解決してしまうのは、普段のトレーニングがそういうプレーで解決できてしまうからである。そのような意味でも、守備の習慣化、意識付けは非常に重要であると感じる。

今回は、無失点で終わるゲームが多かった。しかし、相手のミスに救われ失点してもおかしくなかった場面は多くあった。失点は様々な要素が重なり合っているが、その一つとして「守備意識の不足」「コミュニケーション不足」が挙げられる。昨年に比べ、ケースに応じたポジショニングや守備の優先順位を意識した対応ができるようになってきているが、常にアラートな状態で準備をしているか、周りとのコミュニケーションが絶えずとられているかと言うとそうではない。ボール保持者と1stDFの状況を観ること、自分の相手を観ておくこと、そしてそれに対してグループとしてチームとしてどのようにマークにつくのか、動いてくる相手を受け渡すのか、付いていくのかなど変化に応じてコミュニケーションを絶えず取り続けることが求められる。

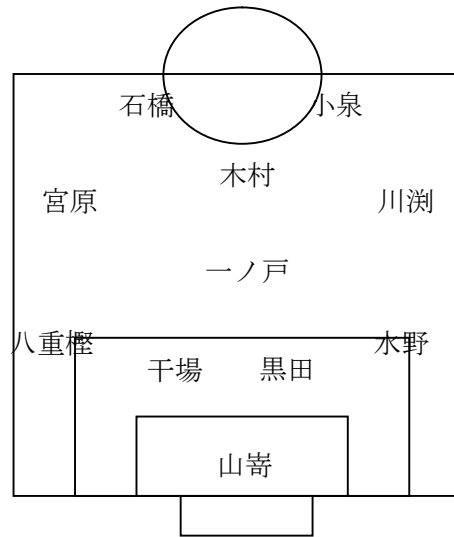
### 3. ゲーム (30分)

- |         |        |       |
|---------|--------|-------|
| ○ 1 試合目 | v s 網走 | 1 - 0 |
| ○ 2 試合目 | v s 十勝 | 2 - 0 |
| ○ 3 試合目 | v s 十勝 | 2 - 0 |
| ○ 4 試合目 | v s 網走 | 0 - 2 |

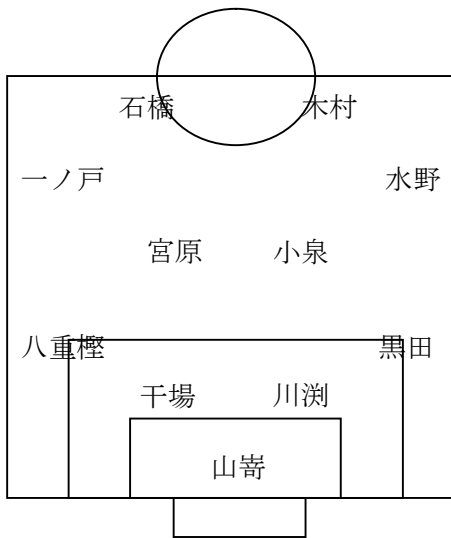




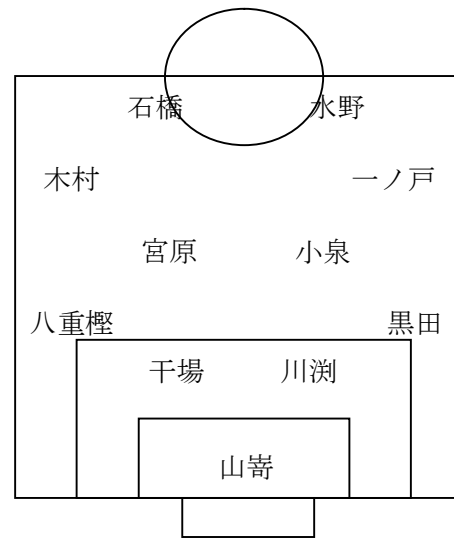
1 試合目



2 試合目



3 試合目



4 試合目

#### 4. 今後の課題

○攻 撃…「観る」→習慣化

「止める」「蹴る」の質→正確性、パススピード

→動きながらのコントロール、置き所

「ポジション」 →攻撃の原則の理解、パスコースになる、動き出しのタイミング、相手との距離

○守 備…「観る」→習慣化

「Off の守備」 →ポジショニング (良い準備)、守備の優先順位の理解、コーチング

「On の守備」 →積極的に奪いに行く、ステップワーク、粘り強い対応、囲い込み

○攻→守の切りかえ…「観る」→習慣化

「スピード」→1st ディフェンダーの決定、アプローチのスピード

「ポジショニング」→2nd、3rd…のポジショニング

○守→攻の切りかえ…「観る」→習慣化

「スピード」→拡がり

「ポジショニング」→ゴールと相手の状況を観て判断

「止める」「蹴る」の質→正確性、パススピード

→動きながらのコントロール、置き所

※ 宮原勇哉、石橋成悦、八重樫恭介（以上、SC釧路）の3選手が8月28日から日高町で開催される「2010 U-13・14HOKKAIDOトレセンキャンプ」の道東代表選手として選考された。

文責：釧路トレセンU-14チーフ 沼田 懇